

氏名	門 前 俊 徳		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	乙 第 1348 号		
学 位 授 与 の 日 付	昭和58年 3 月31日		
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）		
学 位 論 文 題 目	母指の手根中手関節，中手指節関節，指節間関節の骨の形態に 関する研究		
論 文 審 査 委 員	教授 村上宅郎	教授 寺本 滋	教授 折田薫三

学位論文内容の要旨

ヒトの手の特徴的な機能は母指の運動に代表されるといわれている。この部の関節構築を検索するのは母指の複雑な運動の解析に役立つとともに，母指の手根中手関節の変形性関節症への手術にも有用である。このような観点から，高分子化合物を利用したの硬組織薄切と超軟X線を用い母指の諸関節の骨構築を検索した。母指手根中手関節（CM 関節）は鞍関節であるが，直角外転，直角内転に対応する関節面は同心円でない。そのため最大直角外転時に大菱形骨と中手骨の間にロックがおこる。外転，内転，屈曲，伸展に対応する関節面は，外転はかなり運動が自由にできる形態であるが屈曲は大菱形骨結節のため制動される。CM 関節は完全な鞍関節でないため，対立時に中手骨の内旋がおこる。中手指節関節（MP 関節）は楕円関係であり，その運動は3方向の自由度がある。指節間関節（IP 関節）は蝶番関節である。などが確認できた。最も特徴的な所見は母指の CM 関節が完全な鞍関節でないことで，このため母指の種々の運動が可能であることが判明した。

論文審査の結果の要旨

本研究は母指の関節について樹脂包埋薄切法と超軟X線法をもちいて研究したものであるが，従来十分解明されていなかった母指の運動と関節の形態について重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。